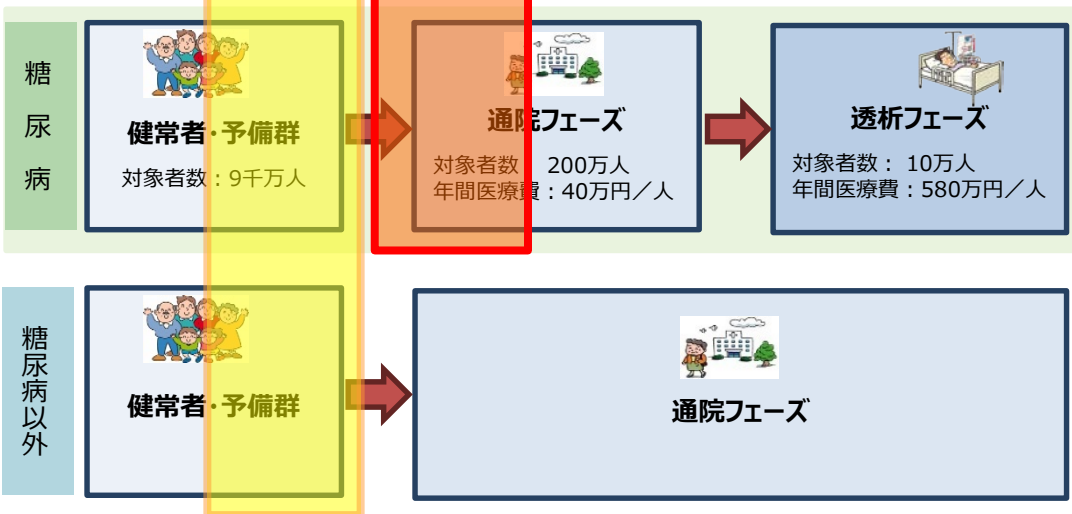


健康・医療情報を活用した ヘルスケアサービス創出に向けて

平成29年10月4日
経済産業省
商務・サービスグループ
ヘルスケア産業課

<対象者>

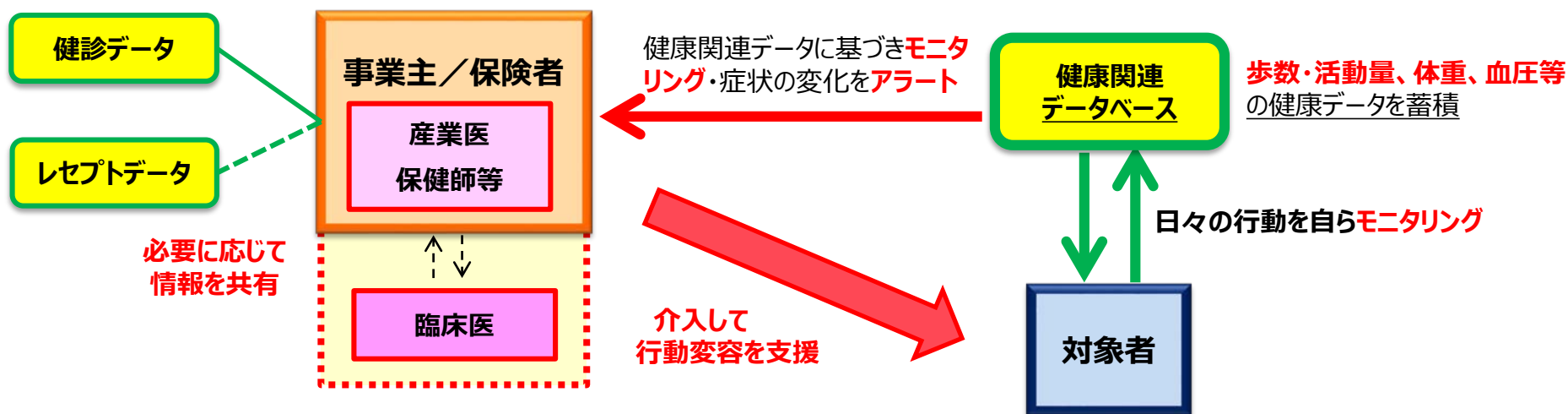


<主に活用する健康情報等の項目>

- ① 日常生活のモニタリングをするための情報
 - ・**歩数・活動量** (歩数計等のウェアラブル機器、スマホ等で計測)
- ② 症状の変化をアラートするための情報
 - ・**体重** (職場等で計測)
 - ・**血圧** (職場等で計測)
 - ・症状の度合いを示す項目: **HbA1c** (医療機関等で月に1回程度検査)、血糖 (職場等で計測)、尿糖 (自宅等で計測)

※ 糖尿病有病者 (軽度) 等が基本 (高血圧、脂質異常患者等を含めてもよい)
HbA1c (NGSP) ≥ 6.5 であって、
 透析、インスリン、血糖降下薬のいずれも行っていない者

- ※ 血糖、尿糖は日内変動があるため、一定の測定条件での計測となるように配慮が必要。
- ※ 以上を基本としつつ、他の手段をもって同等の目的を実現できる場合は変更や追加を可とする。



糖尿病重症化予防プロジェクト② – 先行研究の結果

- 平成28年度に先行研究を実施。
- 先行研究では、8コンソーシアム約1,000人を対象に実証事業を実施
(8コンソーシアムの総従業員数は約164万人)
- 先行研究において、日々の健康情報を用いることにより有意な効果を発揮することが示唆された。

【平成28年度実施コンソーシアムと参加人数の全体像】

コンソーシアム	参加人数		概要
	軽症者※1	予備群※2	
8コンソーシアム合計 (平成28年度実施総数)	662人	401人	※1:HbA1c値6.5以上、投薬等対象者含む ※2:HbA1c値5.6以上6.5未満、投薬等対象者含む

【平成28年度実施結果の一例】

例：チーム「七福神」 (愛知県健康づくり振興事業団)	181人	—	● 23医療機関、2健診・保健指導機関と連携し、勉強会を開催するなどノウハウを共有しながら事業を実施。
-------------------------------	------	---	---

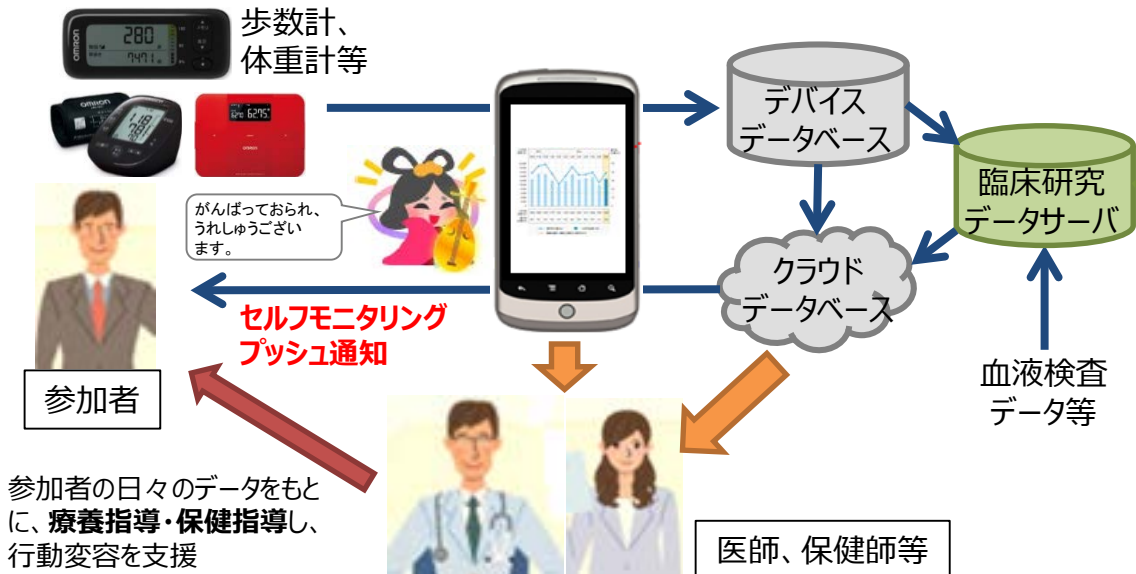
H b A 1 C の 値 (%)		事業開始時	3ヶ月後	改善度
投薬治療なし	介入あり	6.99	→ 6.43	▲0.56
	介入なし	6.75	→ 6.60	▲0.16

糖尿病重症化予防プロジェクト③ - 今年度以降の取組 (より厳格な実証)

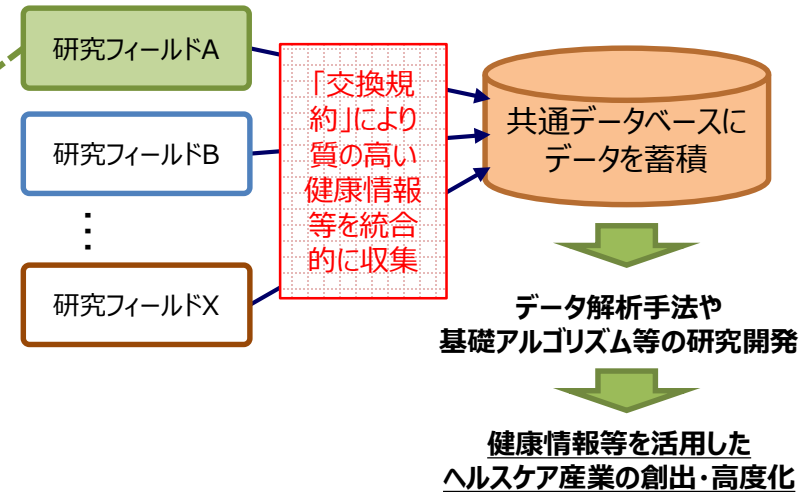
- 昨年度の先行研究の結果を踏まえ、平成29年度より日本医療研究開発機構 (AMED) の研究事業として、より大規模にかつ長期間 (2,000名程度、3年間) にわたる厳格な実証事業を実施する。
- 日本糖尿病学会 植木浩二郎 常務理事 (国立国際医療研究センター) を代表とする団体が採択され、**2,000名程度の糖尿病軽症者を対象とした大規模臨床試験**を行う。
その際、先行研究で効果が高かった「七福神アプリ※」を使用する。
- あわせて、平成28年度に策定した「**健康情報等交換規約定義書**」(交換規約)により、介入研究を通じて得られる質の高い健康情報等を収集・解析し、生活習慣病改善等に資する**行動変容サービスの高度化につながる人工知能 (AI) アルゴリズムの開発**等を目指す。

※ 「あいち健康の森健康科学総合センター」センター長 津下一代先生が企画・開発。

【事業の概要】



【交換規約を介したデータ収集イメージ】



参加者の日々のデータをもとに、療養指導・保健指導、行動変容を支援

健康・医療情報を活用したヘルスケアサービスのユースケース創出

- 本人同意を前提に、IoTによる取得されるデータの連携、蓄積基盤を構築（交換規約やデータ交換様式の検討、試行）。
- 医学的に確立された糖尿病診断指標(HbA1c)を用い、治験等に用いられる手法(ランダム化対照実験等)により効果を検証。
- 質の高いデータ（クオリティデータ）を用いて科学的エビデンスを構築し、健康・医療情報を活用したサービスのユースケース創出を目指す。

